

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101481		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム岡崎若松の家(1号館)		
所在地	愛知県岡崎市若松町字川向7番地1		
自己評価作成日	令和4年8月7日	評価結果市町村受理日	令和4年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2372101481-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・住宅街に位置し、周辺にスーパーマーケット、コンビニ、喫茶店、ラーメン店、パン屋、たこ焼き屋、公園などがあります。こうした立地環境を活かし、外食や買い物に出かけたり、町内の行事に参加するなど、社会との関わりや地域住民と接する機会を大切にしています。(現在はコロナの為、控えている)
 ・下肢筋力の低下防止のため、一周300メートル程のコースを朝晩、歩いています。、車椅子に乗った方を歩ける方が押して行くなど、利用者様同士が協力し合って散歩します。
 ・掃除や洗濯、料理、草むしり、回覧板をまわす等、一人一人の活躍の機会をつくり、自分が

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平均介護度2.2と比較的軽く、利用者は「ああしたい」「こうしたい」の主張もやや強めですが、「ゆっくり一緒に楽しく暮らす」との理念通り、穏やかな関わりを以て利用者の安寧を担保しています。ウイズコロナも少しずつ推進され、提供される食事を半分減らしてでもカップヌードルを食べたい利用者はスーパーマーケットで思う存分好みのヌードルを選べた日もあり、土曜日の散歩はパン屋さんに立ち寄るのも日常に溶け込んでいます。中には喫煙が止められない人もいて、電子煙草のため火災の心配はないものの、1日15~20回に及ぶ本人の楽しみの支援に、職員が充電やセットに動んでいる例もあり、根気と尽力に頭が下がります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設のエントランス、各ユニットに『ゆっくり一緒に楽しく暮らす第二の住まい』という事業所の理念を掲げ全職員が介護に取り組んでいる。	法人理念、事業所理念の両方を掲示しています。法人理念は入職時のオリエンテーションで理解を求め、事業所理念は毎月の職員会議で管理者から繰り返し話して意識の継続を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板を届けたり、廃品回収や草刈り、お祭りなど地域の自治会活動にも参加している。	コロナ前は側溝掃除や草刈りなどに足腰の丈夫な利用者や出向いていましたが、現在は廃品回収への協力ぐらいです。それでもトラックへの積み込みは利用者もはりきって手伝い、有用感を味わっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で家族が介護をしている方々(入居申し込み者)などに介護の事で困っていることなどの相談に乗っている。中学生の職業体験を通して子供たちにも理解を深められるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様やご家族、市の介護相談員、包括支援センター職員、民生委員などからの意見や要望に対しては、できる限り取り入れている。	事業所の中で2ヶ月分の活動内容をまとめて議事録とし、メンバーに郵送しています。自治会長は市の広報誌を定期的に届けてくださるので立ち話での情報交換はできていますが、他のメンバーと会う機会はありません。	議事録に返信葉書やFAXシートなどを同封して、書面開催であっても意見がもらえる仕組みをつくることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム部会で、市の介護保険課職員を招いて「意見交換会」を行ったり、生活保護の担当職員とは協力関係を築くよう取り組んでいる。	市のグループホーム部会では年1回市役所の指導監査係に質問できる機会を設けており、事業所も欠かさず出席のうえ、適切な運営につなげています。また生活保護者の減免措置などでは担当者に様々な助言をもらえ、助けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。また、年4回の『身体的拘束適正化委員会』の場で、学習する機会を設けている。	現在身体拘束が必要な利用者はいませんし、安易な拘束がないよう、また定められた取組みを遵守すべく、「身体的拘束適正化委員会」を四半期毎に開催して委員で協議しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については朝礼や研修を通して学ぶ機会をもっている。また、不適切なケアについては、その場で注意し合い、虐待が見過ごされないように防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であれば支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容をしっかり理解していただけるように、時間を掛けて丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はコロナ禍で中止しているが、通常は利用者様やご家族様にも運営推進会議に参加して頂き、意見交換を行っている。また、面会時などにも現状をお伝えし、それに対する意見を訊いて、個別ケアに生かしている。	面会はなるべく可能となるよう工夫され、家族の来所時にコミュニケーションがとれています(状況が緩和した時期ならば建物の中には入らなければよいとして、空気の流れがある庭先で、マスクをして対面にならない等条件の下)。	「若松通信」が年4回発行されています。殆どの事業所が毎月発行であること、コロナの影響で面会が万全でない状況を鑑みて毎月となることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を訊いたり、一人ひとりと話をする機会を設け職員が職場での問題を報告しやすいように心掛けている。また、法人内にも『職場環境110番』が設置されている。	2ユニット合同での毎月の職員会議で情報共有が叶っています。また管理者が職員の様子を見て面談の誘いがけをしており、大勢の前で言えない人や内容的に言いにくいことが個人面談で解消されています。	
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『個人評価表』での個別評価がボーナスに反映されるようにシステムがある。また、資格や勤続年数によって得られる手当がある。『職場環境110番』や『給与勤務疑問1110番』などが設置されていて、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は『資質向上のための計画』を定め、資格取得や研修への参加を促すとともに、参加しやすいようにシフトを組むなど、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍での中止が多いが、通常は『グループホーム小部会』や『介護サービス事業者交流会』に参加し、同業者との交流の機会を持っている。そおした場で得た情報も施設のサービス向上に役立っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談やケアプラン作成前に、ご本人の困っている事、不安な事、要望などに耳を傾けて、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族からも困っている事や不安な事、要望などをしっかりと聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めて、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『介助する側』『介助される側』といった関係ではなく、それぞれが役割を持った平等、対等な人間関係として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の定期受診は家族に行き行って頂くなど、入居後も関わりが途絶えないようにしている。 現在はコロナ禍で面会の機会も少なかったが、通常は面会、運営推進会議への参加、行事への参加も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会は控えて頂いていたが、電話、手紙などでやり取りは継続しているようにサポートしている。	隣へ回覧板を届けることを役割としている人もいます。絵を描くのが好きで色鉛筆や絵の具などの画材を豊富にもつ人は、以前看板屋さんです。絵を描くのが大変上手なだけでなく占いも得意で、他の利用者が家族の愚痴を言うと仏師のように落ち着かせています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を摂る時の席や散歩に一緒に行く時のメンバーなどは、出来る範囲で配慮している。散歩の際も、歩ける方に車椅子を押して頂くなど、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に他の施設へ移られた方への情報提供や相談に乗っている。今後も要望があれば、相談や支援に協力したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族、と相談しながら行っている。また、意思表示が困難な方については、本人に代わり『本人だったらどうして欲しいか』という視点で、暮らし方について検討している。	平均介護度が2.2、介護度1は8名という状況のため、苦情に近いものを含みしっかり言えていて、管理者としては頼もしい限りと歓迎しています。「職員の〇〇さんの対応がこうだった」とかの告げ口もしっかり運営改善に役立たせてもらっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族、在宅の時の介護支援事業所などから、聞き取りを行い情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、在宅の時のケアマネから希望や要望を聞き、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。	サービス担当者会議の開催前には利用者からの聞き取りとともに面会や補充で訪れた家族に時間をとってもらい、要望を確認しています。また、現在は未だ計画作成担当者が2名いますが、今後は法改正に準じて1名とする予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化していく健康状態を記録し、職員全員で共有し、状態に合わせた介護サービスを提供するため、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が住宅街に位置しており、公園やスーパー、飲食店、コンビニ、ドラッグストア、クリニック等も近く、豊かで楽しい暮らしが送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医もいるが、そこでなければいけないわけではなく、入所前から通っていた所へ受診している方もいる。また、施設での往診や訪問診療を受けられるように支援している。	これまでは在宅の頃からの医師へと家族が受診に付き添う事が中心でしたが、訪問診療をおこなう新たな協力医を導入したことで、体制に変化が生れています。5名協力医、8名が近所の医院の往診、他5名は在宅の頃からの医師という構成に成っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が利用者様の情報を共有し、適切な受診や看護を受けられるように協力し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、ご家族との連絡を密に取り合い、進めて行っている。	「看取りに関する指針」で契約時に家族への説明後、「看取り介護同意書」にサインをもらっています。常に医療行為がある場合は無理ですが、「ご飯が食べられない」など、自然なかたちでの老衰による看取りならば前向きに取り組んでいます。	医師の中には24時間オンコールでない事もあるため、地域の訪問看護事業所との連携を徐々に進めることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『緊急時の対応方法』の手順を電話の前に貼ってある。急変時の対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は毎年行っているが、実際に起きた場合に訓練通りに的確に動けるかどうかは不安がある。近隣住民との協力体制も十分とは言えない。	9月に本年度の第1回目の防災訓練を「通報」「避難」「誘導」「消火」で構成して実施、2回目となる2月には夜間をおこなう予定です。利用者も参加しており、水消火器を「やりたい」と奪い合いになりそうな勢いで参加した利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ていない職員も居るため、接遇やプライバシー保護の研修や職員会議での話し合いを行い、徹底して直している。	軽度の利用者は職員が自分の事を話していたと感じてしまうため、申し送りは基本ノートで、話すときは小声としたり、部屋番号を進めています。また管理者が不適切であることに気づいたときは、その場で注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的な押し付けにならないように、一つ一つの動作の前に、必ずご本人に確認してから行うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方については、出来るだけ自由に、ご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際の洋服やカットの際の髪形などは、ご本人の希望を確認している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年、嗜好調査を行い、食べ物の好き嫌いを把握するように努めている。また、自分たちがブレンダーや焔で作った野菜を使ったり、皮むきや味付け、食器洗いや食器拭きなどに関わって頂いている。	利用者の中には食器拭きや配膳だけでなく、「包丁をつかう」「炒める」「味付けをする」「盛る」の一連の流れが独りでできてしまう人もおり、男性職員は野菜の切り方や煮物の味付けを教わり、日々指導を受けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や塩分の調整、咀嚼・嚥下の悪い方には、刻み食やミキサー食で対応し、ご自分で食べる事が困難な方には、食事の介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療も取り入れ、助言・指導も受けながら、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔を見計らって、トイレへの声掛けや誘導を行うなど、トイレでの排泄が維持できるように支援している。	常時車いすが必要な人が3名います。内2名がつかまり立ちができず、立位も保てないためベッド上でのおむつ交換となっています。1名手すりにつかまりながらなんとか、という人は体調がよくないと二人介助となりますが、「できる限りトイレで」を励行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を付け、便意の時は服薬や看護師による敵便などで、対応している。また、食べ物や水分摂取量の調節などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂場に暖簾を掛けたり、温泉の入浴剤を入れたり、入浴後に乳酸菌飲料を提供するなど、楽しめるよう取り組んでいる。しかし、利用者様を2グループに分けて、一日おきに入浴して頂いていて、入浴時間も決まっている為、個々に添った支援とは言えない。	1日おきの入浴で法定よりプラス1日とするとともに、「湯」と大きく描いた暖簾が下がり、温泉の素が用意され、湯上がりには乳酸菌飲料が飲め、抜群のおもてなしです。また年中行事に熱心な職員が柚子湯、菖蒲湯を欠かさず準備しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の入床時間も一人一人自由にしている。また、昼寝をする方もいるなど、個別の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用がひどい、効果が出ていないなどの場合は、医師に相談して薬を調整して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ハンが大好きな方には、一緒に近所のハン屋さんへ買い物に行ったり、コーヒーが好きな方を連れて喫茶店へ行く事もある。喫煙がやめられない方には、タバコを吸えるように対応している。 畑仕事や、食事の調理など一人ひとりに活躍の場を提供できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食などに出掛けたいという希望者には、出来る限り応えている。 桜や梅が咲く時期にはお弁当を持ってお花見に出かけたりしている。	一周300メートル程のコースを朝晩、歩いているほか、車いすの利用者を歩ける人が押すなど、利用者様同士が協力し合って散歩する光景は恒例です。また買い物ではできる人には支払いもお願いして社会参加の一環としています。	コロナ禍における外出としては十分ですが、降りないドライブで流れる季節の景色を堪能できれば、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で出来る方には、買い物時の支払いをして頂いているが、普段は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、その都度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や、今が何月かを感じられるように、年中行事や四季に合わせた飾りを利用者様と作成して飾っている。	換気は朝食後から4~5回おこない、手すりの消毒や手洗いも利用者、職員共に徹底しています。また以前看板屋さんで、絵を描くのが上手な利用者には、近く壁画の下案を依頼しようと予定しており、完成が楽しみです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席やテレビを見る際のソファでの座る場所などにも配慮している。散歩なども気の合った人同士で行けるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がご自宅で使用していた家具や家電、家族の写真、使い慣れたものなどを、特に制限する事なく持って来て頂いている。	壁をドンドン叩く習性があり、周囲に迷惑なので手が届かない位置にベッドを移動させるとともに、寝返りをして落ちるといけないので窓側に寄せています。安全な起き上がりや移乗を目的に、ベッドサイドに手すりをつけた人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかること」を職員が把握し、その方の状態に合わせ、ご本人の意思を確認してうえで、家事の手伝い等をお願いし、みんなで協力して生活している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101481		
法人名	平成フードサプライ株式会社		
事業所名	グループホーム岡崎若松の家(2号館)		
所在地	愛知県岡崎市若松町字川向7番地1		
自己評価作成日	令和4年8月7日	評価結果市町村受理日	令和4年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2372101481-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
訪問調査日	令和4年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・住宅街に位置し、周辺にスーパーマーケット、コンビニ、喫茶店、ラーメン店、パン屋、たこ焼き屋、公園などがあります。こうした立地環境を活かし、外食や買い物に出かけたり、町内の行事に参加するなど、社会との関わりや地域住民と接する機会を大切にしています。(現在はコロナの為、控えている)
 ・下肢筋力の低下防止のため、一周300メートル程のコースを朝晩、歩いています。車椅子に乗った方を歩ける方が押して行くなど、利用者様同士が協力し合って散歩します。
 ・掃除や洗濯、料理、草むしり、回覧板をまわす等、一人一人の活躍の機会をつくり、自分が

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平均介護度2.2と比較的軽く、利用者は「ああしたい」「こうしたい」の主張もやや強めですが、「ゆっくり一緒に楽しく暮らす」との理念通り、穏やかな関わりを以て利用者の安寧を担保しています。ウイズコロナも少しずつ推進され、提供される食事を半分減らしてでもカップヌードルを食べたい利用者はスーパーマーケットで思う存分好みのヌードルを選べた日もあり、土曜日の散歩はパン屋さんに立ち寄るのも日常に溶け込んでいます。中には喫煙が止められない人もいて、電子煙草のため火災の心配はないものの、1日15~20回に及ぶ本人の楽しみの支援に、職員が充電やセットに動んでいる例もあり、根気と尽力に頭が下がります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設のエントランス、各ユニットに『ゆっくり一緒に楽しく暮らす第二の住まい』という事業所の理念を掲げ全職員が介護に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を届けたり、廃品回収や草刈り、お祭りなど地域の自治会活動にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で家族が介護をしている方々(入居申し込み者)などに介護の事で困っていることなどの相談に乗っている。中学生の職業体験を通して子供たちにも理解を深められるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様やご家族、市の介護相談員、包括支援センター職員、民生委員などからの意見や要望に対しては、できる限り取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム部会で、市の介護保険課職員を招いて「意見交換会」を行ったり、生活保護の担当職員とは協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアを行っている。また、年4回の『身体的拘束適正化委員会』の場で、学習する機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については朝礼や研修を通して学ぶ機会をもっている。また、不適切なケアについては、その場で注意し合い、虐待が見過ごされないように防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要であれば支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容をしっかり理解していただけるように、時間を掛けて丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在はコロナ禍で中止しているが、通常は利用者様やご家族様にも運営推進会議に参加して頂き、意見交換を行っている。また、面会時などにも現状をお伝えし、それに対する意見を訊いて、個別ケアに生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を訊いたり、一人ひとりと話をする機会を設け職員が職場での問題を報告しやすいように心掛けている。また、法人内にも『職場環境110番』が設置されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	『個人評価表』での個別評価がボーナスに反映されるようにシステムがある。また、資格や勤続年数によって得られる手当がある。『職場環境110番』や『給与勤務疑問1110番』などが設置されていて、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は『資質向上のための計画』を定め、資格取得や研修への参加を促すとともに、参加しやすいようにシフトを組むなど、配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍での中止が多いが、通常は『グループホーム小部会』や『介護サービス事業者交流会』に参加し、同業者との交流の機会を持っている。そおした場で得た情報も施設のサービス向上に役立てている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談やケアプラン作成前に、ご本人の困っている事、不安な事、要望などに耳を傾けて、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族からも困っている事や不安な事、要望などをしっかりと聞いて、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めて、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『介助する側』『介助される側』といった関係ではなく、それぞれが役割を持った平等、対等な人間関係として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の定期受診は家族に行って頂くなど、入居後も関わりが途絶えないようにしている。 現在はコロナ禍で面会の機会も少なかったが、通常は面会、運営推進会議への参加、行事への参加も勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での面会は控えて頂いていたが、電話、手紙などでやり取りは継続しているようにサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を摂る時の席や散歩と一緒に歩く時のメンバーなどは、出来る範囲で配慮している。散歩の際も、歩ける方に車椅子を押し頂くなど、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に他の施設へ移られた方への情報提供や相談に乗っている。今後も要望があれば、相談や支援に協力したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族、と相談しながら行っている。また、意思表示が困難な方については、本人に代わり『本人だったらどうして欲しいか』という視点で、暮らし方について検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族、在宅の時の介護支援事業所などから、聞き取りを行い情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、在宅の時のケアマネから希望や要望を聞き、カンファレンスを開いて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化していく健康状態を記録し、職員全員で共有し、状態に合わせた介護サービスを提供するため、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が住宅街に位置しており、公園やスーパー、飲食店、コンビニ、ドラッグストア、クリニック等も近く、豊かで楽しい暮らしが送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医もいるが、そこでなければいけないわけではなく、入所前から通っていた所へ受診している方もいる。また、施設での往診や訪問診療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師が利用者様の情報を共有し、適切な受診や看護を受けられるように協力し合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、ご家族との連絡を密に取り合い、進めて行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『緊急時の対応方法』の手順を電話の前に貼ってある。急変時の対応について研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は毎年行っているが、実際に起きた場合に訓練通りに的確に動けるかどうかは不安がある。近隣住民との協力体制も十分とは言えない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ていない職員も居るため、接遇やプライバシー保護の研修や職員会議での話し合いを行い、徹底して直している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の一方向的な押し付けにならないように、一つ一つの動作の前に、必ずご本人に確認してから行うように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方については、出来るだけ自由に、ご本人のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際の洋服やカットの際の髪形などは、ご本人の希望を確認している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎年、嗜好調査を行い、食べ物の好き嫌いを把握するように努めている。また、自分たちがブレンダーや焔で作った野菜を使ったり、皮むきや味付け、食器洗いや食器拭きなどに関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や塩分の調整、咀嚼・嚥下の悪い方には、刻み食やミキサー食で対応し、ご自分で食べる事が困難な方には、食事の介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療も取り入れ、助言・指導も受けながら、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔を見計らって、トイレへの声掛けや誘導を行うなど、トイレでの排泄が維持できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を付け、便意の時は服薬や看護師による敵便などで、対応している。また、食べ物や水分摂取量の調節などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂場に暖簾を掛けたり、温泉の入浴剤を入れたり、入浴後に乳酸菌飲料を提供するなど、楽しめるよう取り組んでいる。しかし、利用者様を2グループに分けて、一日おきに入浴して頂いていて、入浴時間も決まっている為、個々に添った支援とは言えない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の入床時間も一人一人自由にしている。また、昼寝をする方もいるなど、個別の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用がひどい、効果が出ていないなどの場合は、医師に相談して薬を調整して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ハンが大好きな方には、一緒に近所のハン屋さんへ買い物に行ったり、コーヒーが好きな方を連れて喫茶店へ行く事もある。喫煙がやめられない方には、タバコを吸えるように対応している。 畑仕事や、食事の調理など一人ひとりに活躍の場を提供できるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食などに出掛けたいという希望者には、出来る限り応えている。 桜や梅が咲く時期にはお弁当を持ってお花見に出かけたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で出来る方には、買い物時の支払いをして頂いているが、普段は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、その都度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や、今が何月かを感じられるように、年中行事や四季に合わせた飾りを利用者様と作成して飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席やテレビを見る際のソファでの座る場所などにも配慮している。散歩なども気の合った人同士で行けるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人がご自宅で使用していた家具や家電、家族の写真、使い慣れたものなどを、特に制限する事なく持って来て頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来る事」「わかること」を職員が把握し、その方の状態に合わせ、ご本人の意思を確認してうえで、家事の手伝い等をお願いし、みんなで協力して生活している。		